

1. 開会挨拶

谷内 おはようございます。時間になりましたので、コメントワークショップを始めさせていただきますと思います。

今日は、非常に朝早いところを遠くから来ていただき、ありがとうございました。

簡単に自己紹介させていただきますが、私は総合地球環境学研究所、長いので私どもは略して地球研と呼んでおりますけれども、地球研のたくさんプロジェクトがありますが、その中でも『琵琶湖・淀川水系における流域管理モデルの構築』というプロジェクトのリーダーの谷内と申します。よろしくお願いいたします。

今日は、「コメントワークショップ」というものをプロジェクト主催で開催させていただきます。私どものプロジェクト、長いので「琵琶湖・淀川プロジェクト」というふうと呼んでおりますけれども、このプロジェクトも今年度が5年目ということで、今後、プロジェクトの成果あるいは総括に向けて取りまとめを行うステージに入っております。そこで、この段階に入って、特に私たちのプロジェクトに関係の深い諸分野の先生方にこの機会に一度コメントをいただいて、それをもとに総合討論をし、私たちのプロジェクトをうまくまとめていこうという意図で開催させていただきました。今回は、特にこのプロジェクトに関係の深い3人の先生方をお呼びしております。

簡単にご紹介させていただきますが、お一人は加賀昭和先生。大阪大学大学院環境・エネルギー工学専攻の先生です。先生は、私たちと同じく淀川水系のプロジェクトを担当しておられて、そこから私たちとも関係する流域管理のプロジェクトとして、その立場から有意義なコメントをいただきたい、そういうふうに思っております、よろしくお願いいたします。

次に、舩橋晴俊先生。法政大学社会学部の先生です。舩橋先生には、そのお考え、あるいはコンセプトの面で私たちのプロジェクトも当初から非常に示唆をいただいております。そういう点から、特に問題解決志向というふうに書かせていただきましたけれども、環境社会学等、環境問題のコンセプト、あるいはそういう立場についてコメントいただきたい、そういうふうに思っております。

最後の3人目の方ですが、川端善一郎先生は私たちと同じく地球研のプロジェクトを昨年からはじめられております。先生は特に水系、湖をも含めた生態系のご専門で、地球研でも水域における感染症と人間の相互作用のプロジェクトを始めておられます。先生には、地球研のプロジェクトの立場から私たちのプロジェクトに関してコメントいただきたい、そういうふうに思っております。

今日のプログラムを簡単にご説明いたします。後ですすぐ説明いたしますけれども、私たちのプロジェクトには五つの班というものが 있습니다。その班の活動をかなり詳しくご説明したいと思うのですが、最初に私から、このプロジェクト全体のコンセプトと全体像についてお話しします。その時間というのは、30分の発表に対して、質疑応答あるいはコメントを15分ぐらいいただく。次に、物質動態班及び生態系班、この立場からの内容を陀安さんをお願いいたします。これもやはり発表が30分で、質疑応答が15分程度となっております。昼食後、1時半から今度は社会文化システム班というのがあるんですけ

れども、その立場から脇田さんに、やはり 30 分の発表と 15 分の質疑応答という形で発表していただきます。最後になりますけれども、ここはちょっと時間も押していることもありまして、内容的には二つの内容になります。GISモデリングというのは、もともと流域情報モデリング班という班があるのですけれども、その立場から琵琶湖流域の話で、前半から 4 番までは基本的には琵琶湖流域を中心にした話になります。その話と、後半の 15 分になりますけれども、淀川下流域の話をさせていただきます。それがやはり 30 分プラス 15 分で、その後にコメンテーターの 3 人の先生方からそれぞれ 10 分コメントをいただきたいと思います。その後で 30 分ほど時間がありますけれども、参加者も交えて総合的な討論を行いたい。そういうプログラムを考えております。

私のほうからのコメントワークショップ全般に関するご案内は以上です。

では、ここでプログラムの中に入っていきたいわけですが、午前中は、司会を脇田さんをお願いして、私のほうからコンセプトと全体像に関するお話をさせていただきます。